

# 道徳

「道徳科」が来年度から小学校で本格的に実施されます。今までの「道徳」とは違って、今回の「道徳科」には検定を通過した教科書が使用され、そして学習状況を評価し、指導要録や通知表などに記録することになると聞きます。

辞書で引くと「道徳」とは、「人のふみ行うべき道」とあります。

## 小

学生の私は「道徳」の時間が好きでした。他の授業と違って暗記したり計算を解いたり、答えはこれしかないというような事もなく、また国語とも違って漢字や読みのテストがあるわけでもないのです。先生は他の授業では出てこない興味深いお話をしてくれたりするのです。そして、人としての事の善悪を押しつけることなく論じてくれたように思います。先生が話されることは、子ども心にも尤もなことだと思えました。先生が話された事の善悪と両親が何時も躰けていることが同じだったからそう思えたのだと思います。いくら学校で、道徳の時間を設けて子ども達に教えたとしても、家に帰った時に親達とをしていたり話しているのは、子ども達に道徳心が身に付くはずはないと思います。親たるもの、我が子をしつかりと躰けた上で、小学校へ入学させるといふ気概を持たなければならぬと思います。例えば、我が子がいじめられないように心配する前に、我が子が他の子どもをいじめたりしない子どもになるようにしなければなりません。子どもは、一番身近にいる親を見て育つのです。それは、教師にも言えます。毎日学校に通う子ども達にとって、親の次に大きな影響を与える大人は、やはり先生です。親と教師が、まったくちぐはぐなことを言っているのは、子ども達は大人を信用しなくなりそうです。そして、もう一つ。どんなにいいことを言っても、その言葉と相反する行動を大人達、特

に親や教師がしていたならば、子ども達は大人の言葉は信じないで、大人の行動を真似するようになるでしょう。

釈迦十大弟子の一人の阿難尊者は、仏教の教えは何かと問われ、

諸悪莫作（諸の悪は作すこと莫れ）

衆善奉行（衆の善は奉行せよ）

と答えました。簡単に言えば「悪いことはするな、良いことをせよ」と言う意味です。分かりきったことでしょう。かの有名な白楽天が、その昔、今で言うところの知事のような役目で杭州に赴任しました。この杭州の秦望山というところに道林和尚という高僧がいることを聞き、早速会いに行きました。そして、尊い教えを伝授して貰おうと「佛法の大義は何か」と問うたところ、道林和尚は、「諸悪莫作 衆善奉行、悪いことはするな 良いことをせよ」と言ったのです。白楽天は、それならば誰でも知っていることだがっかりすると、「三歳の童子もこれを知るといえども 八十の老翁もなお行いがたし」と道林和尚は言い添えたのです。これには、白楽天も唸らないわけにはいきませんでした。道林和尚の言う通りです。言葉では何とでも良いことが言えますが、その言葉通りに良いことをすることは、人間なかなか出来ないものです。口では立派なことを言っている親や教師、大人達が、それは相反する行動をしているのは、子どもの道徳教育は無に帰してしまいい「人のふみ行うべき道」を外してしまうことになります。

## 道

徳は一日一日その日々の中の私達大人の行動の中にこそあるのではないでしょうか。私も大人として、そう自分を諫めなければなりません。

※昭和48年発行 芳賀幸四郎著「禅語の茶掛一行動」参照

（元青森県立北斗高校校長）